

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2015年4月6日～2015年4月12日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年4月16日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼ハジンバ「大統領」の発言(7日)

・ハジンバ「アブハジア共和国大統領」はインターファクスのインタビューで、グルジアにおける NATO の軍事施設の設置はアブハジアとロシアに対する脅威となると発言。また、(政権交代を経て)グルジア政府のレトリックは攻撃的ではなくなったが、グルジアがアブハジアとの武力不行使に関する文書への署名を拒んでいることが対話の障害となっていると述べた。

#### 【南オセチア】

##### ▼行政境界線の通過点の閉鎖(11日)

・南オセチア「政府」は、復活祭に際し11日から12日にかけて行政境界線の通過点を一時的に閉鎖。  
・この措置に対し、グルジア外務省は、復活祭に地域の住民が墓地を訪れることができなくなるとして、ロシア連邦に対し人権・基本的自由を保障するよう求める声明を発表。

### 2. 外 政

##### ▼ルーマニアの国防相がグルジアを訪問(5日-6日)

・ドゥシャ・ルーマニア国防相がグルジアを訪問。ルーマニア国防相の公式訪問は初。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、ジャネリゼ国防相らと会談。  
・「ジャ」国防相との会談で、ドゥシャ・ルーマニア国防相は、「グルジアは正しい道を進んでいる」として、ルーマニアは NATO 加盟を目指すグルジアの最も信頼のおけるパートナーの一つだと強調した。

##### ▼ODIHR 所長がグルジアを訪問(6日-7日)

・リンク OSCE 民主制度・人権事務所 (ODIHR) 所長がグルジアを訪問。ベルチャシヴィリ外相らと会談。「ベ」外相はグルジアと ODIHR との密接な連携の重要性を強調し、司法・選挙制度改革に対する支援について感謝を述べた。  
・リンク ODIHR 所長は南オセチア行政境界線付近の状況を視察。

##### ▼カラーシン 露外務次官の発言(7日)

・ロシースカヤ・ガゼータ紙に掲載されたインタビューで「カ」露外務次官は、ロシアはグルジアとの対話を継続するとして、グルジアの現政府の姿勢を評価しつつ、NATO の訓練センターの設置に関して懸念を述べ、グルジアの「二面性」を指摘。

##### ▼大統領がローマ法王と会談(10日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領がバチカンを訪問し、二国間関係の発展についてローマ法王と会談。会談では、慈善活動や教育の分野におけるグルジアのカトリック教徒の貢献が強調され、また、地域情勢や欧州との統合に向けたグルジアの前進についても議論された。  
・会談後、「マ」大統領は、バチカンがグルジアの領土一体性・主権を積極的に支持していることが確認されたとして、「人工的につくられた障壁や分割線が21世紀に存在してはならない」ことで意見が一致したと述べた。

### 3. 内 政

##### ▼警官の殺害事件(4日)

・トビリシ市内で4日夕に何者かが警官に発砲し、警官1名が死亡、もう1名の警官が重傷を負った。内務省は10日朝にボルジョミにて犯人を逮捕したと発表。犯人は1月にもボルジョミで警官1名を銃で殺害していた。  
・犯人は以前服役していたが2013年11月に行なわれた大規模な恩赦で刑期を短縮され釈放されていた。9日、ガリバシヴィリ首相は寛大な措置を受けたにも拘らず再び犯罪を犯した者を政府は容赦しないとコメント。

##### ▼未成年者のISILへの参加(6日)

・出国したパンキン渓谷出身の16歳と18歳の青年がISILに加わるべくシリアに向かった疑いが強いことが明らかになったのを受け、グルジア北東部パンキン渓谷の長老らが、地域の青少年がシリアに送られている状況に対して措置を講じるよう政府に要請。  
・ゴメラウリ内相は、本来は保護者の許可を示す文書がなければ未成年者を出国させてはならないため、出国手続きに不備があったことを認め、トルコ政府に対して2人の青年をグルジアに送還するよう要請したと述べた。

##### ▼最高裁長官と法相が会談(6日)

・グヴェネタゼ最高裁長官がツルキアニ法相と約2時間以上にわたり会談。会談後、「グ」最高裁長官は、司法のあらゆる分野について非常に建設的な議論が行なわれたとして満足を表明した。

##### ▼ジャネリゼ国防相が国会の国防・安全保障委員会に出席(8日)

・「ジャ」国防相が国会の国防・安全保障委員会に出席し答弁を行なった。グルジアの安全保障状況を形成する主要な要因として、グルジアの親欧米政策の転換を目的とした「ソフトパワー」の活用を含むロシアの軍事的脅威、被占領地域の状況、ウクライナ情勢に言及。ロシアはアブハジアと南オセチアに約1万人の兵士と2500人の国境

警備隊を駐留させており、戦術ミサイルシステム、防空ミサイルシステムなどを配備していると述べた。

・防空システムの購入に関し、フランスのみならず他のパートナー諸国とも協議していると発言。

・NATO の「実質的パッケージ」の実施は遅滞なく進められており、NATO・グルジア訓練・評価センターは今年中に設置されるとして、グルジアは着実に NATO に近づいていると強調。

#### 4. 経 済

##### ▼2015年第1四半期のワイン輸出(8日)

・国家ワイン局の統計によれば、2015年第1四半期には25カ国に対しグルジアワイン510万本(1500万ドル)が輸出された。前年同期比68%減。

・輸出先は多い順にロシア(35.8%)、カザフスタン(20.2%)、ウクライナ(12.8%)、中国、ポーランド。ロシアやウク

ライナへの輸出が大きく減少したのに対し、中国、日本、カナダ、英国などへの輸出の伸びが大きい。

・2014年には46カ国に対し5,907万本(1億8500万ドル)が輸出された。前年比30%増。

##### ▼トルコとグルジアがエネルギー分野での協力に関する合意に署名(9日)

・イスタンブルにてカラゼ・エネルギー相とユルドゥズ・トルコ・エネルギー天然資源相が、エネルギー分野における両国の長期的な協力に関する合意に署名。合意によれば、2016年末までに両国間の送電ネットワークを整備し、トルコは欧州送電オペレーター網(ENTSO-E)への統合に関する経験をグルジアと共有する。水力、再生可能エネルギー資源などに関する協力にも言及。